



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

緩和ケア相談看護外来を ご利用ください

こんにちは、緩和ケア認定看護師の田淵です。

市民病院には緩和ケアチーム、患者サロン、緩和ケア相談看護外来など、がんを持つ患者さんと家族のサポートを行う場所があります。

今回は皆さんに「緩和ケア相談看護外来」についてお伝えします。



皆さんは「緩和ケア」というとどんなイメージを持っていますか。

「がんでつらい症状が出てきたときに始めるもの」というイメージを持っている人も多いと思います。しかし最近では、「がんと分かったときから始め、治療中も行われることがのぞましい」と言われるようになりました。

がんと伝えられたとき、家族ががんと分かったときなどには、落ちこんだり不安になることもあるかもしれません。まずは身近にいる家族や友人、医療関係者に相談することもあると思います。でも「もう少し誰かに聞いてほしい」「気持ちの整理をしたい」「生活面の工夫など聞いてみたい」など思ったときには、どうぞ気軽に「緩和ケア相談看護外来」にお話しに来てください。お待ちしております。

緩和ケア相談看護外来

とき 第2・4金曜日 13時～14時

申込み 平日13時～17時に市民病院

※予約が必要です。

碧南の歴史へのいざない

No.17 災難つづきの碧南干拓、 過去の教訓が生きた伊勢湾台風

右上の写真①は運動場が海のようになっていますが、大浜小学校の様子を写した写真です。今から56年前の昭和34年（1959年）9月26日に来襲した伊勢湾台風（台風15号）によるものです。愛知県の死者は3千人を越え、碧南市でも11人の死者が出ました。市内で特に被害が大きかったのは碧南干拓（川口町）で、ほぼすべての建物が屋根まで浸水してしまいました（写真②）。

少しさかのぼって、昭和28年（1953年）9月に台風13号が来襲し、完成間近だった碧南干拓が完全に水没したことで、市全体の防災意識が高くなりました。その後、昭和31年（1956年）8月に碧南干拓が竣工し、100世帯が入植。台風13号からの復旧が終了しかけていた昭和34年（1959年）3月に、碧南市に編入されたのですが、その半年後に伊勢湾台風が来しました。

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

しかし、台風13号のときに得た教訓から、市・警察・消防団・干拓内の自警団などが災害対策を練り、干拓の住民をすばやく避難させました。このことにより、伊勢湾台風による碧南干拓における人的被害を最小限に抑えることが出来ました。



①伊勢湾台風後の
大浜小学校の様子
(市所蔵資料)



②伊勢湾台風後の
川口町の様子
(市所蔵資料)